

「見方・考え方」の育成から、これからの社会に必要な資質・能力の育成へ

「見方・考え方」から資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの構成

(1) 生き方・学び方の時間の創設

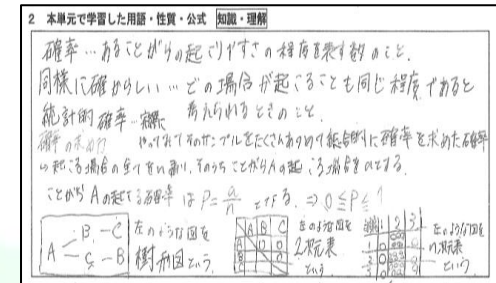


生徒の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」などの学力面と、「学びに向かう力等」の情意・態度面とを総合的に育成し、生徒が自分自身の学びを実感できるようにしなければ、授業で身に付けた「見方・考え方」はこれからの社会に必要な資質・能力となりません。そのために、教科等の「見方・考え方」を生徒の生き方そのものに関係付ける方法を明らかにする必要があります。昨年度から、当校では、パーソナルポートフォリオ（以下、PPFと表記）を軸に、教科等の「見方・考え方」の育成から、資質・能力の育成を図るためのカリキュラム・

【パーソナルポートフォリオ】マネジメントとして、「生き方・学び方」の時間を創設して取り組んでいます。

※昨年度の取り組みが、[国立教育政策研究所が発行する『資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究』研究報告書5～資質・能力の包括的育成に向けた評価の在り方の研究』の成果例として取り上げられました。](#)国立教育政策研究所のホームページからご覧いただけます。「生き方・学び方」の時間については、秋の教育研究発表会で公開します。http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h28a/syocyu-1-5_a.pdf へのリンク

(2) 教科等の見方・考え方が身に付いた実感を促すために



授業で、生徒は「見方・考え方」を働かせて、課題解決を図ろうとしています。しかしながら、「見方・考え方」がどのようなものであるか、自分にとってどのように有効なのかなどの実感をもちにくいものです。そのため、「生き方・学び方」の時間では、生徒が教科等の「見方・考え方」を「見いだす」ようにします。「見いだす」とは、教科等の授業を通して、「①何の課題を解決するために」「②何をどのような視点（関係）で捉え、どのように考えたか」「③何がわかる、できるようになったか」という点からこれまでの「見方・考え方」にメタ認知を促し、生徒が「見方・考え方」を図示できるようにします。また、教科等の時間で「見方・考え方」を整理することも促します。

【数学科の「学びの軌跡カード」】

(3) 「見方・考え方」を自分の生き方に関係付けるために

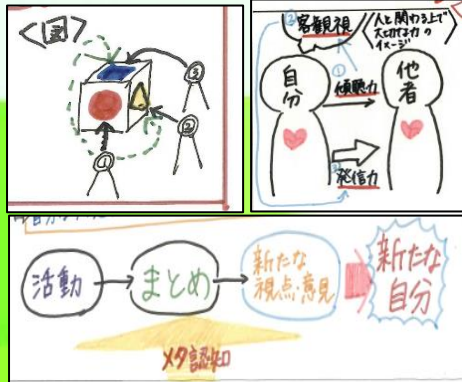
① ゴールシートから自分の生き方の問いを立てる

今年度1年間を通して、「なりたい自分」の姿のゴールをもたせるためにゴールシートを作成します。ゴールシートは、PPFの最初の1ページとなります。ゴールシートを作成することで、「今年度1年間の学習を通して、何のために、何ができるようになりたいか」「やることは、自分にとってどのような価値があるのか、意味があるのか」「どんな自分になりたいのか」という意識をもてるようになります。

② パーソナルポートフォリオを基に学びを紡ぐ

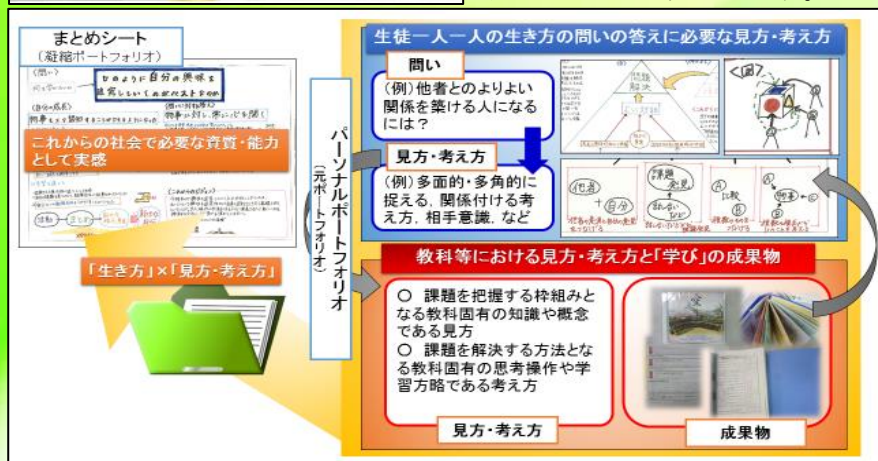
教科等の授業だけでなく学校の教育活動全体を通して、生徒が自らの成長につながった成果物を選択し、自分の成長に関するものをPPFに入れ込みます。生徒はPPFを基に、これまでの学びの履歴を紡いで学びをまとめ、自らの成長を実感します。

③ 自分の生き方の問いの答えに必要な「見方・考え方」を見いだす



自分の生き方の問いの答えに必要な「見方・考え方」を、学期はじめ、学期途中に設定させ、生徒が日常場面で意識して着目したり、用いたりするようにします。例えば、「他者とのよりよい関係を築ける人になるには」という問いを立てた生徒は、「多面的・多角的に捉える」「他者との考えを比較したり、関係付けたりする」「相手意識をもつ」「相手の考えを尊重する」などの「見方・考え方」を想起します。これらの「見方・考え方」を具体的な授業場面や日常場面での経験と関係付け、図示するように促します。こうすることで、生徒は教科等で身に付けた「見方・考え方」と自分に必要な「見方・考え方」との関連性に着目するようになります。教科等の「見方・考え方」が自分の生き方に関係しており、自分のこれからの生き方に意味のあるもの、つまりこれからの社会に必要な資質・能力として実感できるようにします。

【「生き方・学び方」の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントのイメージ】



平成29年度「教育研究発表会」の情報

○期日

平成29年10月23日（月）

○講師

國學院大学 人間開発学部 初等教育学科

准教授 寺本 貴啓 様



【講師紹介】

國學院大学人間開発学部 准教授 博士（教育学）

1976年兵庫県生まれ。静岡県の小・中学校教諭を経て、広島大学大学院に学んだ後、大学教員になる。専門は、理科教育学・学習科学・教育心理学。特に、教師の指導法と子どもの学習理解の関係性に関する研究、その周辺の学習評価、教員養成、ICT機器を活用した指導に関する研究に取り組んでいる。また、小学校理科の全国学力学習状況調査問題作成・分析委員、学習指導要領実施状況調査問題作成委員、教科書の編集委員等を経験し、小学校理科を研究の基盤としている。

主な著書に『学習科学ハンドブック』（共著、培風館、2009）『小学校理科室経営ハンドブック』（共著、東洋館出版社、2011）『言語力の育成を重視したみんながわかる理科教育法』（共著、学校図書、2012）『“ダメ事例”から授業が変わる！小学校のアクティブ・ラーニング入門—資質・能力が育つ“主体的・対話的な深い学び”—』（編著、文溪堂、2016）『六つの要素で読み解く！小学校アクティブ・ラーニングの授業のすべて』（編著、東洋館出版社、2016）などがある。

○演題

資質・能力が育つ主体的・対話的で深い学びを授業でどう具現化するか～新学習指導要領の動向を踏まえて～（仮）

○寺本先生の研究室ホームページ

http://hatena.net/?page_id=2 へのリンク

今年度も全教科・領域の授業を公開します。随時、研究の概要などをアップしていきます。多数の皆様からのご参加をお待ちしております。

平成29年度 指導者・協力者の皆様

下記は平成29年度の研究指導者・協力者の皆様です（敬称略）。今年度も行政、大学、市内・県内の公立中学校から、研究の指導者・協力者としてご協力・ご支援いただき、共同研究を進めていきます。

教科	指導者(行政)	所属	指導者(大学)	所属	協力者	所属
国語	長谷川聡実	新潟市教育委員会	小久保美子	新潟大学教職大学院	倉島 庸子	新潟市立濁川中学校
社会	若林 靖人	下越教育事務所	宮園 衛	新潟大学教育学部	海老名 崇	胎内市立中条中学校
数学	小竹 智	新潟市立総合教育センター	阿部 好貴	新潟大学教育学部	橋本 善貴	新潟市立藤見中学校
理科	若狭 陽一	下越教育事務所	[春授業] 伊藤 克美 [研究発表会] 岸本 功	新潟大学教育学部	坂上 直樹	新潟市立東新潟中学校
音楽	笛木 晶子	新潟市立総合教育センター	伊野 義博	新潟大学教育学部	畑 弥央子	新潟市立大形中学校
美術	山田 哲哉	新潟市教育委員会	永吉 秀司	新潟大学教育学部	兒玉 季恵	佐渡市立両津中学校
技術	阿部 一晴	県立教育センター	下保 敏和	新潟大学教育学部	関野 幹裕	新潟市立内野中学校
家庭	福田 愛日	義務教育課	山口 智子	新潟大学教育学部	赤塚 仁美	新潟市立葛塚中学校
保健体育	脇野 哲郎	新潟市教育委員会	檜皮 貴子	新潟大学教育学部	渡邊 祐哉	新潟市立早通中学校
英語	大岩 樹生	新潟市教育委員会	松澤 伸二	新潟大学教育学部	鈴木 啓	新潟市立五十嵐中学校
道徳	尾身 浩光	新潟市立総合教育センター	中野 啓明	新潟青陵大学	吉野 雅典	新潟市立亀田西中学校
特別活動	香遠 正浩	下越教育事務所	吉澤 克彦	新潟大学教職大学院	武藤 朋美	新潟市立上山中学校
総合的な学習の時間	金 洋輔	五泉市教育委員会	一柳 智紀	新潟大学教職大学院	井上 北斗	弥彦村立弥彦中学校

春授業の申し込み方法

【申し込み方法】

参加申込みは、各授業日の3日前までに、メールアドレス haruken2017@fuchu.ngt.niigata-u.ac.jpにて、お申し込みください。

<申込みの際には>

①学校名 ②氏名・教科 ③参観される授業の教科・領域名

④ 参加される公開授業・協議会の（ ）内に○・×をご記入ください

- (1) 公開授業（ ）
- (2) 協議会（ ）
- (3) 昼食の希望（ ）

※昼食を希望される方は実費700円をいただきます。

当校の研究に関するご質問・ご不明な点は、下記までお問合せください。

研究主任 上村 慎吾

Tel 025-223-8341

E-mail

kamimura@fuchu.ngt.niigata-u.ac.jp